

研究テーマ	試行錯誤しながら主題を追求できる力を育む美術科指導と評価
-------	------------------------------

常陸太田市立里美小・中学校 木村 美香子

I 研究テーマについて

1 主題設定の理由

現行の中学校学習指要領には、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、それらを活用しながら課題解決するために、思考力、判断力、表現力やその他の能力を育むことの重要性があげられている。美術科における表現の活動は自分の主題を基に思考・判断、表現する創造的な学習である。そのためには、生徒一人一人の表現意図や能力、表現力を的確に捉え、思いを広げ、深めながら、美術による創造活動の喜びを味わうことができる指導が重要である。また、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所、平成23年7月）には指導と評価の一体化の重要性が示されており、学習の結果のみならずその過程を含めた評価を行い、学習指導の改善を図っていかなければならない。

本校の生徒は、美術での表現活動が好きで意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、手順や手本を示すとそれに沿って制作することはできるが、自分が受けた感動やイメージを基に主題を設定し、それを作品として表現することができていないと感じる生徒が多い。また、主題追求のために試行錯誤することに関しての経験不足から、それを避ける傾向が多く見られる。実際の生徒の作品からも構想力の不足が見られ、独創的で個性豊かな作品が制作できる生徒が少ない。

よって、主題追求のために試行錯誤することを通して、生徒の主題の実現を図り、制作活動の達成感を味わわせることが必要であると考え。また、これらの指導を積み重ねることで美術の基礎的な能力が高められると共に、それらの能力が総合的に発揮され、自分の思いを十分に表現し自己有効感を得られる指導が可能になる。あわせて、生徒が施行錯誤する過程において思考・判断、表現の観点において評価し、指導と評価の一体化を図っていく必要があると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

主題追求のために試行錯誤することを通して、生徒一人一人が自分の主題の実現を図り、制作活動の達成感を味わいながら思いを表現するための美術科指導と評価のあり方を究明する。

3 研究の仮説

生徒が自分の表したい世界を具体的に意識できるような学習カードを活用し、指導と評価の一体化を図りながら、生徒が主題追求のために試行錯誤できるように支援すれば、生徒は自分の思いを広げたり、深めたりしながら、十分に主題を表現できるであろう。

4 基本的な考え方

(1) 主題の追求について

生徒は表現するとき、自らが強く表したいことを心の中に思い描き、それを作品を制作していくための柱としていく。その柱となるものが主題であり、制作における作者のテーマである。そして、主題の実現を図るために、何を、どのようにして表現すべきか、その手立てを考える。形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解し、それを基に表現対象のイメージを捉えながら、感じ取ったことや考えたことをどのように表現すればよいか試行錯誤する。この試行錯誤の過程こそが主題を基に思考・判断、表現する創造的な学習であり、そうすることが生徒が自分の思いを広げ、深めながら主題を追求することにつながるのである。表現活動における主題の創出のためには、生徒が題材を自分のものとして受け止め、感じ取ったことと向き合い、捉えなおし、表したいものをしっかりと主題化して制作に取り組むことが大切である。

しかし、実際の生徒の活動内容を見てみると、素材や表現する対象に触れながら制作を進めていくことで主題が変化し、構想が練り直されていく場合もある。これらを考えると、題材の提示→主題の創出→構想を練る→制作する、という流れにとらわれず、弾力的に生徒の表現欲求に対応していかねばならない。このことは新学習指導要領にも明示され、そのためには生徒自身の思いを読み取り、教師自身がその主題をよく理解することの必要性があげられている。

(2) 学習カードの工夫と評価について

心豊かに表現する構想を練るためには、生徒一人一人の個性や既習事項、体験などを生かし、感動したことや考えを基に、言葉や文章、スケッチや身近な材料などを使いながら、その思いを徐々に広げ、構想を深めさせていくことが大切である。その中でも、生徒が友達や教師と会話をしたり、文章で説明したりするなど主題や制作意図について言葉や文章により表現することは、それらが深まり、より明確になることが期待できる。

そこで、①言葉や文章などで自分の主題を深めながら、構想を練り、②作品の到達目標（完成予想図）や制作過程を確認し、③時間ごとの授業到達目標を把握して学習に取り組めるよう学習カードを工夫し、生徒自身が学習カードを使い常に主題と向き合い、試行錯誤しながら制作を進められるようにする。また、教師が生徒の思いを読み取り、理解しながら指導をするための手掛かりとしてもカードを活用する。併せて、カードに記載された評価規準をもとに生徒と教師が共に評価することで、互いの評価のズレを解消したり、評価を次時の個に応じた指導に生かすことを目指す。そうすることで生徒の思いを広げ、深めさせながら、生徒の創造活動を豊かなものにできると考えた。

II 研究の実際

1 題材名 MY パワーストーン

2 目標

○立体表現に興味をもち、作品への思いを表現しようとする。

(美術への関心・意欲・態度)

○完成のイメージに応じた形を発想し、立体表現のための構想を練ることができる。

(発想や構想の能力)

○材料や道具の特徴を理解し、それを生かしながらイメージに応じた制作ができる。

(創造的な技能)

○それぞれの作品に込められた気持ちを感じ、よさ美しさやを感じるができる。

(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実際

本学級の生徒は美術が好きな生徒が多く、制作に意欲的に取り組んでいる。絵画的な表現よりは立体的な表現を好み、小学校で勾玉を製作した経験から石という素材に対する抵抗感はなく非常に好意的である。しかし今までの制作の様子から、完成模型があり手順が決められているときはスムーズに活動を進められるが、自ら主題を創出し、それに応じた表現の工夫をしたり素材の特徴を生かしながら構想を深めることを避ける傾向がみられる。また、作品のイメージがあってもそれをどう表現していいかわからない、どこをどう彫っていいかわからない、という不安を抱えている現状から、基礎的技術の習得を保証しつつ、様々な方法でイメージを明確にしながらか主題を深め、構想を練ることができるようにしていく必要がある。

(2) 題材観

立体表現は様々な角度からの鑑賞や、素材や作品に直接触ったり作品をとりまく空間における表現をしたりするという点で、絵画とは違った魅力に溢れている。映画やテレビでの3D映像などに見られる映像メディアの発達や新素材や利便性を追求した代替品が出現する中で、古

来からある実在の素材を直に手に取り、それを生かして表現をすることは素材の性質やそれがもたらす感情を実体験から感じ取り理解することにつながり、感性を豊かにする上で非常に重要である。そこで、自分に力を与えてくれるお守りを石を彫ることで表現する本題材を設けた。形や材料の持 本学級の生徒は美術が好きな生徒が多く、制作に意欲的に取り組んでいる。絵画的な表現よりは立体的な表現を好み、小学校で勾玉を製作した経験から石という素材に対する抵抗感はなく非常に好意的である。しかし今までの制作の様子から、完成模型があり手順が決められているときはスムーズに活動を進められるが、自ら主題を創出し、それに応じた表現の工夫をしたり素材の特徴を生かしながら構想を深めることを避ける傾向がみられる。また、作品のイメージがあってもそれをどう表現していいかわからない、どこをどう彫っていいかわからない、という不安を抱えている現状から、基礎的技能の習得を保証しつつ、様々な方法でイメージを明確にしながらか主題を深め、構想を練ることができるようにしていく必要がある。

(3) 指導観

本題材では、主題を基に常に作品や完成予想図に対して比較、検討、修正を加えながら自分の主題を十分に表現できる能力を身につけさせることに重点をおく。まず、“自分だけのお守り”という言葉キーワードに主題を創出、決定する。その際、自分の思いが明確になるように学習カードに文章や言葉で自分の思いを記したり、教師との対話を十分に行いながら主題を深められるようにする。そして、素材の持つよや美しさを感じながら適切なアイディアスケッチができるようにする。合わせて、形やラインの持つ感情など既習事項を十分に生かしながら対象のイメージをしっかりととらえ、表現意図に応じた作品を制作できるようにしたい。また、立体表現に対する知識や技能を十分に身に付けさせ、制作全体の見通しや完成までのより明確な目標をもてるようにすることで、最後まで粘り強く制作に取り組み、主題を深く追求する姿勢を育てるための足がかりとしていく。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
立体表現に興味をもち、進んで表現しようとする。	主題に応じた適切な強調や省略をしながら感性を働かせて構想を練ることができる。	素材や道具の特性を生かし、表現意図に応じた表現を工夫することができる。	作品に込められた気持ちを感じながら、互いに作品のよさを味わうことができる。

5 指導と評価の計画（10時間扱い）

時間	学習内容	評価規準【評価方法】
第1次 ①	○題材の目標について理解し、学習に見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 立体表現に興味をもち、進んで表現しようとする。 関【観察、学習カード】 立体表現について知り、これからの制作内容の見通しをもっている。 創【観察、学習カード】
第2次 ⑧	○表現意図を明確にしながらか完成予想図を描く。 ・表現意図に応じた形の省略や強調、バランスを考える。 ・アイディアスケッチをもとに、作品について検討会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちをもとに主題を決定しアイディアスケッチを描こうとする。 関【観察】 表現意図に応じた適切な強調や省略をしながら感性を働かせて構想を練っている。 想【アイディアスケッチ、学習カード】 対話の内容をもとに主題を深め、試行錯誤しながら構想を広げている。 想【学習カード】
	○石を彫る。 ・道具の特性を生かす。 ・必要に応じて、彩色等の工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> 素材や他者の表現にふれながら、構想を広げている。 想【学習カード、作品】 道具の特性を生かし、表現意図に応じた表現を工夫している。 創【観察、作品】
第3次 ①	○それぞれの作品の鑑賞、互いの作品についての説明をし合う。	<ul style="list-style-type: none"> 作品に込められた気持ちを感じながら、互いに作品について説明し合っている。 鑑【学習カード】

6 指導の実際

- (1) 目 標 ・対話の内容をもとに主題を深め、構想を広げることができる。
(発想や構想の能力)
- (2) 資料・準備 学習カード、鑑賞カード、台本カード、教科書、資料集
- (3) 展 開

学習活動・内容	支援の手立て・評価
<p>1 本時の学習活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>検討会を行い、作品の構想を深めよう。</p> </div> <p>2 アイディアスケッチをもとに、作品について検討会を行う。</p> <p> 《発表者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題について他者に分かりやすく説明をする。 ・主題を表現するための表現の工夫について説明をする。 <p> 《鑑賞者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題の説明や表現の工夫についての疑問点を質問する。 ・自分で感じ取ったことをもとに、感想やアドバイスを伝える。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形 ・素材 <p> } → イメージ, 性質や感情</p> </div> <p>3 意見の交換をもとに、自分の表現について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに本時の活動内容とねらいを記入させ、作品鑑賞の視点を明確にし、課題意識をもって活動に取り組めるようにする。 ・自分がなぜそのような作品にしようと思ったのか、学習カードに書かれた言葉を使い主題を説明するよう促す。 ・言葉だけで主題や表現の工夫を説明することが困難なときは、図や模型等を併せて使うよう促し、より分かりやすく伝えることができるようにする。 ・主題が明確でない生徒には、自分の考えを深めたり、気付かなかった自分の思いを理解したりできるよう対話のなかに教師が助言者として加わる。 ・形や素材が持つイメージ等、既習事項を生かして表現の工夫について説明できるよう事前にキーワードを示す。 ・イメージだけでなく、素材の持つ性質にも目を向けさせ、主題をより具現化するための手立てについても合わせて考えられるようにする。 ・良い表現については生徒全員で共有できるようにすることで、他者の表現の工夫から新たな構想を広げられるようにする。 ・対話中に気づいたこと、感じたことは学習カードへ書き込むよう指示し、アイディアの練り直しをする際のヒントになるようにする。 ・自分の作品についての感想を友だちから伝えてもらい、そのよさを認めてもらうことで自己有用感や作品に対する愛着を深められるようにする。 <p>【努力を要する生徒への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意図を十分に伝えることが困難な生徒には、台本カードを使い自信をもって活動が行えるよう支援する。 ・アイディアスケッチに修正を加える場合には初めのスケッチを消さず加筆にとどめ、

	<p>イメージの変遷を振り返ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイディアスケッチは修正をしても制作中にもとに戻してもよいことを伝え、躊躇せず構想を広げられるようにする。 ・素材の性質上、表現が困難なアイディアは可能な範囲で計画の修正を行うよう個別に助言する。 <p>《評》対話の内容をもとに主題を深め、試行錯誤しながら構想を広げている。</p> <p style="text-align: right;">(発想や構想の能力)</p>
<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに記入をする。 ・次時の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りだけではなく制作過程の全体を通して振り返ることで、今後の見通しを持つことができるようにする。 ・次の活動についてふれ、新たな興味や関心をもって活動に取り組めるようにする。

III 成果と課題

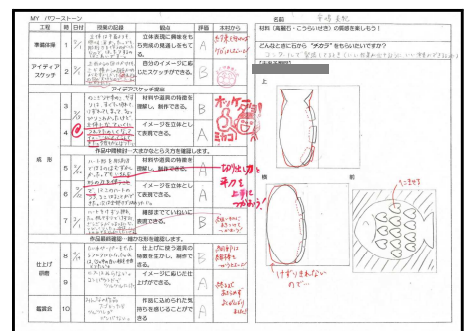
1 成果

(人)

		授業前	授業後
立体作品を作る時、不安なこと、苦手なことは何ですか？（複数回答）	納得がいくまでアイディアを考えることが苦手	20	10
	イメージを形にし、アイディアを練ることが苦手	17	10
	イメージ通りにつくるにはどうしたらいいかわからない	13	8
	道具の使い方がよくわからない	10	9
	刃物や電動工具が怖い	10	12
	その他	6	5
学習カードは、自分の思いをはっきりとさせたり、見通しをもって制作するために有効でしたか？	はい いいえ		27 2
友達や先生と対話をする中で、自分の思いを深めることができましたか？	はい いいえ		21 8
友達や先生と対話をする中で良かったことは、どんなことですか？（複数回答）	イメージしたものより良い形になった		20
	アイディアスケッチの悩みがなくなった		19
	ほめられて嬉しかった		15
	納得がいくまで頑張ることができた。		13
	その他		9
学習カードに時間ごとの目標が書いてあることは活動の目安になりましたか？	はい いいえ		20 9

第1学年1組29名

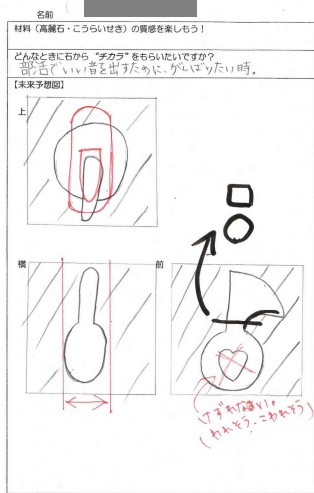
上記の図は、学習に関するアンケートをもとに検証授業前と検証授業後の生徒の意識の変容をまとめたものである。学習カードを活用し、主題を言葉や図、資料、模型等で示しながら、それをもとに他者と対話をする中で、生徒の主題がより明確になり、自分の思いを理解し、深めながら制作に取り組むことができるようになった。また、言葉とアイディアスケッチを組み合わせることで、教師が生徒の思いを十分に把握でき、主題追及のための助言が効果的に行なうことができた。他にも、作品について説明し合ったり、感じたことを伝え合ったりする活動では、受け手に伝わるよう考えながら話そうとすることができた。



▲学習カード

言葉での表現が苦手な生徒は、粘土で作った模型を使ったり、参考作品等の写真を使ったりしながら、分かりやすく伝えようとするなどの活動もみられた。

評価においても生徒の主題の深まりや試行錯誤しながら表現を探究する過程をカードにより見取ることが可能となり、作品のみに頼らない評価を行うことができた。また、制作過程における評価観点を生徒と教師が共有することで、互いの評価のズレを解消することにつながった。



▲模型を使い主題の明確化を図った例

▲アイデアスケッチの修正と作品

2 課題

本題材での活動を通して、生徒は主題について考え、その重要性を理解することができた。しかし、それを思うがままにスケッチや作品として表現するための技能は、十分に身につけていない現状がある。よって今後は次の事項について研究を深めていきたい。

- ・デザイン力を向上させ、対象のもつ美しい形や自分のもつイメージを正確にとらえて表したり、主題に応じた効果的な表現ができるための活動
- ・生徒が互いの作品を鑑賞し、作品に対する思いやそれを表現するための工夫を理解しながら作品のよさや美しさを感じ、それを自分の作品に生かせる指導

≪ 生徒作品 ≫

